

日中科学技術

No. 194
2025. 9. 20

発行所 一般社団法人 日中科学技術交流協会

〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町3-1 横山町ダイカンプラザ 302号

E-mail : jcstea2019@gmail.com / secretariat@jcstea.jp URL : <http://www.jcstea.jp/>

電話 : 03 (3666) 6939 携帯 090-7629-6260 Fax : 03 (3666) 6939

西安から見た日中交流の過去から現在

日中科学技術交流協会 理事 前田龍太郎



先日の 2025 年度（第6回）定時社員総会におきまして、理事に就任させていただきました。今後ともご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

1985年に当時の通商産業省、工業技術院機械技術研究所に就

職し、産総研を経て、現在西安交通大学に勤務しております。専門は3次元微細加工、および強誘電体薄膜アクチュエータ、センサ製造技術開発です。微細加工技術は膨大な加工設備が必要で、大学や公的機関、大企業においてすら参入が困難なため、公的機関として試作設備の共用に尽力してまいりました。2018年よりは縁あって、中国の西安にある大学に奉職し、その関係もあって今回日中科学技術交流協会に参加させていただくことになりました。

西安は長安と呼ばれた古都です。隋、唐の時代には多くの日本人が渡りました。西安中心部の城壁の南門そばに吉備真備の碑

があります。同じ遣唐使での空海や阿倍仲麻呂の碑が中心部から少し外れたところにあるのに比べ、外国の国賓を迎える南門という最も重要な場所に碑があります。空海や仲麻呂のようには知名度の高くない真備の碑があるのはなぜでしょうか。



西安の城壁南門にある吉備真備の碑と岡崎氏の碑文

暇なので調べてみると、真備の碑文を書いた岡崎嘉平太氏が鍵を握っているようです。岡崎氏は ANA の 2 代目社長で日中友

好に尽力し、周恩来氏とも昵懇の仲であったようです。岡崎氏の郷里の偉人吉備真備の碑がここに立っているのは、周恩来と岡崎氏の友情のたまものなのかもしれません。

このように奈良時代は、文化の進んだ中国に日本人が渡り、科学技術や律令政治の基礎を学んだという時代だったようです。また遣隋使が始まつたきさつは当時日本が朝鮮半島に進出するにあたり、高句麗や新羅と対立しており、隋と連携したかったというのが真相のよう興味深いです。

中国と日本とはその後は様々な形で交流が続いていました。特に明治維新以降は日本が西洋の技術革新を取り入れて、急速に工業化に成功したことから、立場が逆転し、多くの中国人が日本に渡り、工学医学やその他の知識を学ぶ時代が続きました。多くの日本人にはその時の記憶が強く、現在の日中間の科学技術の立ち位置の変化に気が付いていません。

我々日本人は中国人を春節に大挙して爆買いをしてくれる人たちと、ステレオタイプな見方をすることが多いです。一方日本人は高い技術力を持ち、世界に良い製品を生み出すすごい国民とほめそやすテレビ番組も少なくありません。しかし実際はどうでしょうか？



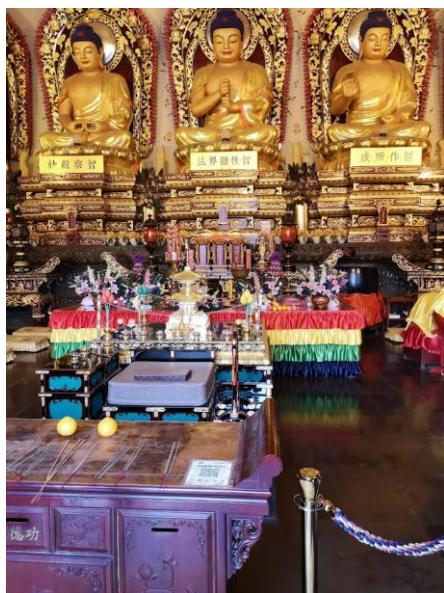
西安交通大学発ベンチャーから武漢に配達される PCR 検査キット

書聖 と呼ばれ王羲之よりも評価の高い顔

真卿の展示会を見るために 上野の国立博物館に 2019 年の春節に中国から 5 万人が来日しています。それに比べ日本では王羲之の名すら出てきません。小学校で習う漢字の数も日本では 1026 なのに対し、中国では小学校 3 年生までに 3000 と大きく水をあけられています。教養面だけでなく、先端技術分野でも我が国は Covid-19 のワクチン開発や PCR 検査技術で他国に大きく後れを取りました。新型コロナ接触アプリのバグがほとんど半年以上も放置された記憶も新しいです。筆者の専門とする分野の国際会議でも一昔前は日米欧の研究機関の発表がほとんどを占めていましたが、現在は多くが中国の機関によって占められています。

1980 年代に日本がジャパン・アズ・ナンバーワンともてはやされた時代に貿易不均衡により日米貿易摩擦が起きました。筆者が 1990 年に当時の通商産業省の大型プロジェクト室に出向したころ、基礎技術ただ乗り論が声高に叫ばされました。担当プロジェクトでも欧米の基礎研究に端を発する技術開発を行うのは問題であり、我が国の固有技術である微細放電加工のような研究を行うべきという意見も出ました。また原子レベル加工を行うようなプロジェクトも基礎シフトの研究としてもてはやされました。土地税制の改革や郵政、国鉄等の分割民営化によって、通信や交通インフラ関連の研究開発費が激減し、関連産業分野が競争力を落としたのも大きいのですが、当時の基礎研究シフトも、日本の産業競争力を弱める一因となった可能性もあります。

日本の凋落に比べ、中国は 90 年代以降どのように変わってきたのでしょうか。貿易不均衡の是正のために、我が国が製造工場を中国に移動させるチャイナシフトが始まり、中国は急速に世界の工場としての地位を高めました。さらに近年は携帯端末の爆発的な普及とキャッシュレス決済やレンタル自転車等のシェアリングエコノミーと相まって急速に GAFA に対抗する BATH (百度、アリババ、テンセント、Huawei) と呼ばれる巨大企業が誕生しました。



QR コードによるお賽銭キャッシュレス決済

先端産業のみならず、基礎科学技術分野も進んでいます。文部科学省の科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) は、世界主要国 の科学技術活動を体系的に分析した「科学技術指標」を公表しましたが、いまや世界で 1 年当たりのトップ 10% 論文数は中国が第 1 位で、日本は 13 位でイランの後塵を拝しています。このような状況の中、いまだにわが国では技術流出論が幅を利かせ、日中の科学技術交流に水を差しているのが現状です。

昨今では米中の先端技術摩擦が過熱し、あおりを受けて日中間の交流もむづかしい状況となりましたが、日中の科学交流は時代が変化しても重要性は変わらないと思います。本協会の活動を通して両国民の繁栄に微力ながら貢献できれば幸いです。

中国科学技術大学附属中学友好交流団来日 茗渓学園中学校高等学校と交流 7月 10 日 (木) ~16 日 (水) つくば市、東京、富士山、名古屋、京都、大阪 協会事務局長 今村政澄



当協会と提携関係にある中国科学技術大学の要請で、中国科学技術大学附属中学の

余国軍副校長を団長とする教師 5 名、学生 (中学二年生) 52 名、合計 57 名が、当協

会を受入機関として、来日した。

中国科学技術大学附属中学は、中国科学技術大学教職員子弟の初等、中等教育を目的として1971年に安徽省合肥市の中国科学技術大学のキャンパス内に設立された小学校、中学、高校の12年一貫教育を行う学校で、現在70クラス、3,000名の学生を擁し、国際交流に力を入れており、今回、初めての訪日団派遣となった。

2025年7月11日（金）午前、受入を担当した余東会員により、中国科学技術大学卒業生の王琨氏が教員を勤める茗渓学園中学校高等学校（茨城県つくば市）を訪問し、歓迎セレモニー、授業参加、学生間相互交流会など5時間にわたり多彩な交流プログラムを実施した。

その後、7月12日（土）は、日本科学未来館の特別展「深宇宙展」と常設展を参観

し、皇居、浅草浅草寺、秋葉原のアニメ関連マーケットなどを訪問、7月13日（日）は、富士山五合目、箱根大涌谷、芦ノ湖遊覧の後名古屋に向かい、7月14日（月）はトヨタ会館を訪問、午後、京都で清水寺、金閣寺を参観して日本文化に触れた。7月15日（火）は、開催中の関西・大阪万博に入場、日本館、中国館などを参観し、7月16日（水）無事に帰国した。

余国軍団長は、今回の訪日団で、茗渓学園中学校高等学校との友好交流を始めとした全てのプログラムが素晴らしい、参加した学生に日中友好の種を植えることができたことは大変有意義であり、今後も継続して友好交流訪日団の派遣をしていきたいとのコメントとともに、受入機関である当協会に感謝の意を表明された。



中国人留学生研究奨励賞募集のご案内

日中科学技術交流協会 会長 山脇道夫

当協会は 1977 年 12 月、戦後の日中學術交流の再興に尽力された日本学術會議の 有志を中心に設立されました。その原点は、1950 年代半ばに遡り、国交回復以前から両国の学術的絆を築こうとされた先達の熱意と努力にあります。以来半世紀近くに わたり、日中間の友好と相互理解の促進に努めてまいりました。この奨励賞は、東京大学名誉教授であり原子核理論の研究者として著名であった 故・野上茂吉郎先生のご遺族からのご寄付を契機に、1987 年度より設けられたもの です。当時、経済的に厳しい環境下で研究に励む中国人留学生を支援するための顕彰制度として発足し、以後、諸先生、企業、会員の皆様からのご寄付により支えられ ながら、継続的に運営されてお ります。本賞は、単なる研究奨励の枠を超 え、日中両国の長い学術交流の歴史と、それを支えてこられた多くの方々の志を受け継ぐものであります。これまでの受賞者は 150 名 を超え、各分野で活躍を広げてお ります。つきましては、貴研究室においてご指導中の中国人留学生の中に、本賞の趣旨にふさわしい方がおられましたら、ぜひご推薦をご検討賜りますようお願い申し上 げます。

募集要項

下記の要領により中国人留学生研究奨励賞の受賞候補者を募集します。応募者の 中から、選考委員会が 3 名以内の受賞者を選出し、研究奨励賞を授与します。

1. 研究奨励賞の内容：賞状および副賞 10 万円を受賞者に授与します。

2. 応募資格

日本の大学・研究所等に在籍する中国国

籍の留学生で、博士学位請求論文に相当する水準もしくはそれ以上の水準の研究を行 い、日本国内または国外の学会において 2 回以上の口頭発表を行い、それらを 1 篇以上 の学術論文として公表 (印刷中を含む) している者、あるいは、日本の大学・研究 所等に在籍、博士学位を取得し、応募締切 日において学位取得後 2 年以内である中国国籍の留学生を対象とします。いずれも、博士 学位請求論文の主たる指導教員、および同じ研究分野の研究者 1 名の推薦が必要です。なお、本研究奨励賞は、本協会会員有志からのご寄付を原資とするもので、研究分野は特定しておりません。

3. 募集期間：2025 年 7 月 1 日～9 月 30 日

4. 授賞式：2026 年 1 月 9 日

5. 応募方法

下記の応募書類を Word、Excel、PDF そ れぞれのファイル形式のものを ZIP 形式にまとめて、電子メールで下記まで送付して ください。

※受信後、受付番号をお知らせいたしますので必ずご確認いただき、未着の場合は締切日までに必ずお問い合わせください。

応募書類送信先：Email：award@jcstea.jp

応募書類の容量が 10MB を超えますと、受け取れない場合があります。お手数ですが、<https://file-post.net/>などのファイル転送サービスをご利用ください。

応募書類

① 申請書：下記 Excel

2025年度 研究奨励賞申請書		
申請日	2025 年 月 日	
氏名（漢字）		
氏名（英字）		
生年月日	19 年 月 日	（満 歳）
出身地（漢字）		
来日年月日		
現住所	年 月 日	
電話（携帯）	E-mail	
所属機関		
専攻／部署	学年／職名	
学位論文／研究題目		
学位授与機関		
学位取得（見込）日	年 月 日	
学歴（高等学校以降）		
職歴		
指導教員氏名		
所属機関		
専攻／部署	職名	
電話	E-mail	
推薦者氏名		
応募者との関係		
所属機関		
専攻／部署	職名	
電話	E-mail	

② 居民身分証コピーPDF

③ 業績要約：和文で 20 文字以内の標題を付し、2000 字以内にまとめること、Word

④ 業績書：査読の有無を明記した論文リスト、その他（著書、データベース、オープンソース、特許等）のリスト Word

⑤ 主要な論文3篇の PDF

⑥ 推薦書（指導教員）A4一枚以内、任意フォーマット PDF

⑦ 推薦書（推薦者） A4一枚以内、任意フォーマット PDF

6. 選考方法

本協会の選考委員会にて選考を行い、2025 年（令和 6 年）12 月までに応募者に採否を通知します。

※ご提出いただいた申請書類はご返却いたしませんのでご了承ください。

※申請書に入力された個人情報は、助成以外の目的には使用いたしません。

7. 受賞者の義務

受賞者は授賞式で授賞への答辞および研究発表を行い、研究概要を日本語で本協会会報に投稿していただきます。

第 30 回理事会 7 月 7 日

1. 事務局長の任命

今村政澄氏が事務局長に任命された。

2. 運営委員会および分科会の設置

理事会の下部組織として、協会活動に関する提案・議論を日常的に行う新たに運営委員会と下部組織の分科会の設置が承認され、運営委員長として前田龍太郎理事が指名された。

3. 50 周年記念委員会を設立し、記念事業の企画、実施に当てることが決定された。

委員の候補として、山脇会長、永崎業務執行理事、須賀理事、藤田理事、坂田理事、前田運営委員長、余会員、今村事務局長が承認された。

記念事業としては、記念出版、祝賀会開催、功労者表彰、記念シンポジウムまたはセミナー開催などが挙げられた。

4. 研究奨励賞の募集・選考の進め方

2025 年度研究奨励賞の募集要項等が提案され、関係規則の一部修正案が承認された。

募集は公募方式に変更され、また推薦者は従来、本協会会員であったのを、指導教員を含む 2 名とするように変更された。

5. 入会の承認

以下の 4 名の入会が認められた。

- ①張秦強（男、1992 年生、物材研）正会員
- ②王英輝（女、1975 年生、元東大無錫代表処代表、元中国科学院大学教授）正会員
- ③劉妍（女、1992 年生、中国科学技術大学教師、森林科学、水素問題）協力会員
- ④劉嘉駒（男、2002 年生、明治学院大学経

済学部2年在学、経営）学生会員

6. 報告事項

- （1）中国科学技術大学訪問団 会報 193号参照
（2）中国からの訪日団受け入れ
①上海政府研修団 16名 7月9～13日
②中国科学技術大学附属中学訪日研修団 59名 7月10～16日（会報194号）

会費とご寄付納付の御礼

2025年度会費とご寄付のご納入が以下の方から 68万円ありました。

ありがとうございました。

会費納入 27名各1万円 計27万円

- ①欧陽氏、②山田圭一氏、③有山氏、④田村氏、⑤藤田氏、⑥須賀氏、⑦八木氏、⑧依田氏、⑨ダボ様、⑩數土氏、⑪王婷氏、⑫山田周平氏、⑬山脇氏、⑭鈴木基之氏、⑮曾我氏、⑯唐氏、⑰坂田氏、⑱永崎氏、⑲岩田氏、⑳福田氏、㉑梶谷氏、㉒山岡氏、㉓余東氏、㉔王英輝氏、㉕石原氏、㉖陳迎氏、㉗前田氏

ご寄付 15名 41万円

- ①欧陽氏 8万円、②有山氏 2万円、③田村氏 2万円、④八木氏 2万円、⑤依田氏 2万円、⑥數土氏 1万円、⑦山田周平氏 1万円、⑧山脇氏 4万円、⑨永崎氏 2万円、⑩福田氏 1万円、⑪梶谷氏 1万円、⑫余東氏 4万円、⑬科技大付属高殿 8万円、⑭王英輝氏 2万円、⑮陳迎氏 1万円

会費未納の方は下記にご納付お願いします。

正会員会費 年額1万円

ご寄付 1万円より

振込先普通預金 みずほ銀行横山町支店
店番040 口座番号3015881

日中科学技術交流協会

目次

1. 西安から見た日中交流の過去から現在 理事 前田龍太郎 1
2. 中国科学技術大学附属中学友好交流団来日 協会事務局長 今村政澄 3
3. 中国人留学生研究奨励賞募集のご案内 会長 山脇道夫 5
4. 第30回理事会 7月7日 6